

凡 例

- 1 本書は、全体が八章に分かれ、自然・原始・古代・中世・近世・近代・現代・民俗となっており、近世（第五章）までが上巻に、近代（第六章）以下が下巻に収められている。
- 2 各章を節・項・目に分け、目はゴシック体であらわした。細目は、(1)、❶等で区分した。
- 3 文体は、出来るだけ平明な口語分とし、現代かなづかいを用い、必要以上の敬称は省略した。
- 4 当用漢字を中心に使い、難解なものは避けたが、固有名詞・学術用語・慣用語等はそのまま用い、特に読みにくいものについては、ふりがなを付した
- 5 引用史料名・書名・論文名・史料所蔵者名等は、本文の中で（ ）内に割注し、年号には、適宜（ ）内に西暦を入れた。
- 6 史料名・史料引用文・論文名・特定物件等については「 」をつけ、書籍・雑誌名には『 』を用いた。
- 7 史料の引用については、なるべく原典のままとした。
- 8 挿図（写真）・表は、章ごとに通し番号を付し、挿図に使用した資料・物件・文化財等は、その所蔵者を明示するようにつとめた。
- 9 巻末に、神社・寺院・仏閣一覧、及び略年表を収載した。